

認証基準①: 評価基準

組織で達成を目指していくための**具体的な取り組み項目**
評価の判断基準でもあり、実践のための目標や指針となるものです

全体構成

1. 施設運営責任者によるコミットメント

- a) 意志の表明
- b) 意志の共有
- c) ユマニチュード推進プロジェクトの運営
- d) 個別支援計画/看護計画

2. 原則1 強制ケアをゼロにする、ケアを放棄しない

- a) 本人についての理解
- b) 関係作りのテクニック
- c) 関係性に裏打ちされた移動のテクニック
- d) 強制をしない
- e) 抑制ゼロを目指す
- f) 行動障害の改善
- g) 提供サービスのプロセス
- h) 各人のリズムに見合った柔軟な段取り
(個別支援計画/看護計画)
- i) ケアとケアのしかたの質
- j) 健康に害を及ぼさない

3. 原則2 各人の唯一性の尊重

- a) 市民権、居住空間の尊重
- b) プライバシー、性生活の尊重
- c) 睡眠の尊重

4. 原則3 最期の日まで自分の足で立って生きる

- a) 立位: 1日20分

5. 原則4 外部に対して開かれている(閉鎖的でない)

- a) 外部の視線の存在
- b) 家族との絆の維持
- c) 社会的、文化的な絆の維持

6. 原則5 生活の場・やりたいことが実現する場を作る

- a) 雰囲気
- b) 生活環境
- c) 食事
- d) 往来の自由、来客を迎える自由

認証基準①: 評価基準

評価項目表は、具体的な評価基準に対して、大項目から小項目まで、中項目の目標、評価手段、それぞれの認証に求められる達成レベルなどがわかる構成になっています。評価の方法は3種類です。

評価項目表の構成

必須項目	評価項目				評価基準	評価手段					訪問調査			達成レベル			
	大項目	中項目	到達目標 (中項目レベル)	小項目		面談	観察	現場の書類閲覧	事前提出/書式	事前提出/書類	自己評価	施設コメント欄	評価員の判断	評価員コメント欄	ブロンズ	シルバー	ゴールド
プロセス シルバー ゴールド	コミットメント + 5原則	分野		具体的なチェック項目	評価基準の内容												

認証の種類ごとに設定された必ずクリアすべき項目

評価の方法

1. Yes, No で評価
2. 実施している職員の割合で評価
3. プロセスの達成度で評価

評価基準の全体構成と評価項目

1. 施設運営責任者によるコミットメント

a) 意志の表明

- 意思表示の方法
- 認証準備
- 認証審査のプロセス
- 認証取得後のプロセス
- 環境整備
- 「よいケア」のための研修計画と実践

b) 意志の共有

- ユマニチュード導入意志の周知
- 生活労働憲章
- 施設運営責任者の役割
- 推進プロジェクトチームの役割
- 地域との共生

c) ユマニチュード推進プロジェクトの運営

- 推進プロジェクトチームの定義
- 施設運営責任者による任命
- 推進プロジェクトチームの組織図
- アクションチーム
- 推進プロジェクトチームの機能
- 進捗管理
- メンバーの任命と専従時間の確保
- ユマニチュード・リーダー
- 「よいケア」の実現
- 「よいケア」実現のための状況把握
- 「よいケア」実現のための入居者・患者への対応
- 「よいケア」実現のための職員への対応
- 「よいケア」実現のための参考資料の活用

d) 個別支援計画/看護計画

- 入居前の手続き
- 入居判定会議
- 入居後の個別支援計画/看護計画の作成手順
- 作成管理
- 必要項目
- 運用

2. 原則1 強制ケアをゼロにする、 ケアを放棄しない

a) 本人についての理解

- 基本情報の取得
- 基本情報の活用
- 在宅生活時と現状の評価
- 個人情報保護
- 個人情報の活用

b) 関係作りのテクニック

- 5つのステップ:総論
- 5つのステップ:出会いの準備
- 5つのステップ:ケアの準備
- 5つのステップ:知覚の連結-見る
- 5つのステップ:知覚の連結-話す
- 5つのステップ:知覚の連結-触れる
- マルチモーダル・コミュニケーション
- 5つのステップ:感情の固定
- 5つのステップ:再会の約束
- 無償の時間
- 5つのステップ:学習と実践の評価

c) 関係性に裏打ちされた移動のテクニック

- 移動:準備
- 適切な移動の前提条件
- 「ユマニチュード・シーツの技術」を用いた移動
- 横移動
- 起き上がり
- シーツを用いた移動技術の実践状況
- スライディングシートを用いた移動技術
- ベッド・椅子間の移動
- 立位介助
- 歩行介助
- 転倒に関する知識と対応
- 移動補助器具の利用状況
- 移動補助用具活用のためのトレーニング
- 「ユマニチュード・カヌーの技術」
- 「ユマニチュード・おむつ装着の技術」
- 「ユマニチュード・拘縮を解く技術」
- 「ユマニチュード・ベッド上シャワーの技術」
- 正しい靴下の脱着
- 正しい靴の脱着
- 移動に関する学習と実践の評価

d) 強制をしない

- 事前指示書
- 本人の同意
- 同意と協力
- ルール違反の場合
- ケアの拒否とその対応

e) 抑制ゼロを目指す

- 身体拘束廃止に関する方針の策定
- 身体抑制禁止項目
- 建築上の抑制への対応
- 身体拘束廃止に向けての具体的な対応策
- 緊急やむを得ず行われる身体拘束の3つの要件とその対応
- 身体拘束廃止のための組織の設置
- 身体拘束廃止組織の役割と具体的な活動内容
- 身体拘束に関する現状

f) 行動障害の改善

- 行動心理症状を持つ人の把握
- 職員に求められる要素
 - 1-ケアを行う職員
- 職員に求められる要素
 - 2-施設の全職員
- 必要な情報・分析・対応
 - 1-ケアを行う職員
- 必要な情報・分析・対応
 - 2-施設の全職員
- 行動心理症状の引き金となる要素の分析
- 分析結果の理解と支援
- 個別支援計画への反映
- 毎日のケアへの反映
- 行動心理症状に対する具体的な技術
- 行動心理症状の変化の把握と記録
- 行動心理症状への具体的な対応
- 行動心理症状に対する組織的な対応

g) 提供サービスのプロセス

- 多職種協働体制
- 伝達事項の共有
- 伝達手法

h) 各人のリズムに見合った柔軟な段取り (個別支援計画/看護計画)

- 本人の要望の尊重
- 個別化されたスケジュールの作成
- 入浴・シャワー
- 口腔ケア
- 「ユマニチュードの評価保清と保清の処方」
総論
- 手順-担当責任者の関与
- 手順-日常業務への適用
- 手順-評価の頻度
- 手順-評価のためのシートの作成
- 手順-「ユマニチュードの評価保清・保清の処方」の作成
- 手順-「ユマニチュードの評価保清・保清の処方」による「ユマニチュードの正しいケアのレベル」の決定
- 手順-「ユマニチュードの評価保清・保清の処方」に含まれるべき必須項目
- 手順- 記録
- 手順- 再評価
- 「ユマニチュードの評価保清・保清の処方」の実施
- モニタリング
- 再評価
- 定期的な更新
- 「ユマニチュードの評価保清・保清の処方」を受けている入居者・患者の数
- 「ジネスト・マレスコッティのケア分類」に基づく入居者・患者のレベル分類
- 拒否があるときのケアの延期

i) ケアとケアのしかたの質

- 高齢者機能評価
- 入居者・入院者の背景
- 薬剤適正使用
- 薬剤に関するリスクマネジメント
- リスク防止プロジェクト
- 感染対策
- 緊急時の対応
- 災害時の対応
- 抑うつ対策プロジェクト
- 低栄養対策プロジェクト
- 口腔ケアプロジェクト
- 疼痛対策プロジェクト
- 転倒対策プロジェクト
- 拘縮対策プロジェクト
- 失禁対策プロジェクト
- 褥瘡対策プロジェクト
- 感染予防対策プロジェクト
- 予防接種プロジェクト
- 終末期対応プロジェクト

j) 健康に害を及ぼさない

- 職員の健康な職場づくりのシステム
- 職員の勤務体制
- 職員の欠勤率
- 職員の労災
- 職員の病気休暇
- 職員のストレス評価
- 職員の離職率
- 職員のバーンアウト
- 職業人の定義
- 正しいケアのレベル
- 正しいレベルのケアを行うためのツールの利用
- 正しいレベルのケアを行うための計画と実施
- 組織内での継続的研修・支援の実施
- 組織内での継続的研修・支援の記録
- 啓発活動の対象者
- ユマニチュード活動の質と継続性の担保
- ユマニチュードの技術の評価
- 各法令の遵守
- 事故防止マネジメント
- ユマニチュードに関する用語の理解
- 伝達内容の質
- 入居者・患者の呼称

3. 原則2 各人の唯一性の尊重

a) 市民権、居住空間の尊重

- 居住空間検討体制の存在
- 居室確認のための表示
- プライバシーカードの利用
- 本人によるプライバシーの管理
- 居室のカスタマイズ
- 快適な居住空間の整備
- 市民としての権利保持
- 選挙権の行使
- 信仰・思想の自由の尊重
- 服装選択の自由
- 品位のある服装
- 抑制的な要素をもつ服装に関する手続きと評価

b) プライバシー、性生活の尊重

- 居室で過ごす選択
- 外部とのコミュニケーション
- プライバシーの保障
- 予定の掲示
- プライバシー・性生活の保障

c) 睡眠の尊重

- 睡眠について検討する組織体制
- 夜間の睡眠の尊重
- 個別の夜間計画
- 個別の夜間計画の実施状況
- 昼寝
- 夜間の徘徊への対応

4. 原則3 最期の日まで自分の足で立って生きる

a) 立位:1日20分

- 立位の目的と知識の理解
- 立位介助技術の理解と習得
- 立位または体幹を起こす実践
- 情報の共有
- 「立位に関する個別計画」の立案、実行
- 正確な技術の実施
- 個別支援計画/看護計画と連携
- 「立位に関する個別計画」
- 立位のための身体能力の評価
- 職員間での技術共有
- 立位介助のトレーニング
- 立位と歩行介助に関する現状把握
- 車椅子を漫然と使わないための取り組み
- 歩行の機会の把握
- 一人ひとりの1日の累計歩行時間の把握
- 立位補助用具活用
- 立位補助用具の付属品の管理
- 「ジネスト・マレスコッティの分類」に基づいた補助器具の適切な選択と使用
- 正しい立位能力の把握
- 車椅子の適切な選択
- 車椅子のメンテナンス

5. 原則4 外部に対して開かれている (閉鎖的でない)

a) 外部の視線の存在

- 施設が開かれた存在であることを宣言している
- 施設が開かれた存在である体制がある
- 家族の参加
- 外部の視線の尊重
- ボランティアの受け入れ
- 実習生の受け入れ
- 情報発信
- 外部からの取材

b) 家族との絆の維持

- 家族への支援体制がある
- 家族への情報提供
- 情報共有
- 社会生活活動への参加
- 生活労働憲章の周知
- 受け入れる自由とプライバシーの尊重

c) 社会的、文化的な絆の維持

- メンタル及び性生活の支援の体制
- 終末期ケアの体制
- 社会的なつながりのための取り組み体制
- 外出・旅行の支援体制
- 施設内イベントに外部の参加が可能である
- 情報アクセスとコミュニケーションの支援体制
- 対外的なコミュニケーションの実施

6. 原則5 生活の場・やりたいことが実現する場を作る

a) 雰囲気

- 社会生活活動の組織体制
- アクションチームリーダー
- 社会生活活動計画立案
- ユマニチュードの価値観を含んだ社会生活活動
- 社会生活活動の取り組み計画の作成
- 社会生活活動の実践
- 多様性のあるプログラム
- 認知症行動心理症状のある人への対応
- 社会生活活動の活動内容
- 活動計画書の項目
- 社会生活活動予定表
- 社会生活活動報告書作成
- 個別支援計画に反映
- 地域の方々へ向けての活動計画書の項目
- 社会生活活動のモニタリングシート
- 参加者相互の連帯サポート
- 参加したい気持ちを育む手段と技術
- スタッフが考慮すべき事項

b) 生活環境

- 社会生活のために確保されたスペース
- レイアウトの改善や改装、改修、建替えをする際のアクションチームの関与
- レイアウトの改善や改装、改修、建替えをする際の入居者・患者の関与
- 障害に対応した環境と建物
- 来客を迎えて懇親できる場所
- 私的にお金を使うことができるサービスや場所の存在
- 職員の業務時の服装
- 本人による衣服の選好・選択とそのサポート

c) 食事

- 質の高い食事を提供する組織体制
- 食事に関するアクションチームリーダーの役割
- 食事提供手段
- 外部の食事提供事業所による適切な食事の提供
- HACCPに沿った衛生管理の取り組み
- 食事の質向上の取り組み
- メニュー委員会の取り組み
- 献立の作成
- 嗜好や食べ方に見合った献立形態の工夫
- 調理の工夫
- メニューの伝え方
- ユマニチュードの食事に関するアクションチームの役割
- ユマニチュードの食事に関するアクションチームの活動内容
- 食事に関する評価
- 個別支援計画/看護計画に基づく栄養ケア計画作成
- 経管栄養を減らす取り組み
- 個人別の食事カードの作成
- 個人別の食事カードの記載内容
- 「ユマニチュードの評価保清」に基づく本人の立位能力評価と食事のケアの関連性
- 個人別食事カードの使用
- 食事に関する物的環境整備
- 食事介助時のユマニチュード技術の実施
- 食卓の選択
- 一人で食べることの選択
- 柔軟な食事体制
- 食事の同席者
- 夜間の食事準備と対応
- テーブルのセッティング
- 多様性のある食事の提供
- 手指衛生
- フィンガーフード
- 食堂への料理長・料理担当者の出向
- 食事時の注意
- 誤嚥防止の取り組み
- 誤嚥防止・改善プログラムを明記した個別栄養ケア計画の作成
- 「ユマニチュード・評価保清」に基づく口腔ケアの実施
- 食事環境整備のためのワークショップ
- 食事環境の検証
- 低栄養と脱水予防の取り組み
- 栄養改善と脱水防止のためのプログラムを明記した栄養ケア計画の作成
- 栄養評価
- サプリメント
- 経管栄養
- モニタリング
- 食事環境の取り組み
- 購買環境の取り組み
- 水と食料の備蓄
- 食事に関するアンケートと結果の分析
- 食事に関する現状把握
- 食物廃棄

d) 往来の自由、来客を迎える自由

- 往来の自由
- 来客を迎える自由
- 施設外への外出支援
- 迷子になる可能性のある入居者の把握
- 迷子になる可能性のある一般棟（施錠されていない棟）の入居者に対してのリスク評価と通知
- 迷子になる可能性のある一般棟（施錠されていない棟）の入居者に対しての対応

評価基準

具体例

必須項目	評価項目				評価基準	評価手段					訪問調査			達成レベル						
	大項目		中項目			到達目標 (中項目レベル)	小項目	面談	観察	現場の書類閲覧	事前提出/書類	自己評価	施設コメント欄	評価員の判断	評価員コメント欄	ブロンズ	シルバー	ゴールド		
	1	1	1	1																
	1	1	1	施設運営責任者によるコミットメント	a)意志の表明 (責任をもって組織でユマニチュードを実践することを宣言する)	意志表明の方法	施設の事業計画書でユマニチュードが施設のプロジェクとして正式に決定されている。	事業計画書に位置付ける	施設の事業計画書に、ユマニチュードの哲学や技術に関する取り組みや、ユマニチュード推進プロジェクトの活動などが含まれ、施設のプロジェクとして正式に決定されている。 年度の事業計画に間に合わないときは、計画に位置付けられていることが示されていればよい(会議録など)	●								Y/N	Y/N	Y/N
	1	1	2				事業計画等に施設全体でユマニチュードが伝える価値(自由、市民権、自律性)の実現を目指すことが明記されている	ユマニチュードが伝える価値(自由、市民権、自律性)の明示	事業計画等に施設全体でユマニチュードが伝える価値(自由、市民権、自律性)の実現を目指すことが明記されている	●								Y/N	Y/N	Y/N

ブロンズの必須項目

評価基準

具体例

必須項目	評価項目				評価基準	評価手段						訪問調査			達成レベル				
	大項目		中項目			到達目標 (中項目レベル)	小項目	面談	観察	現場の書類 閲覧	事前提出 / 書式	事前提出 / 書類	自己評価	施設 コメント欄	評価員 の判断	評価員 コメント欄	ブロンズ	シルバー	ゴールド
2	2	1	原則1 強制ケアをゼロにする、ケアを放棄しない	b) 関係作りのテクニック、および関係性の柱の構築 5つのステップ	5つのステップ: 総論	関係作りのテクニックと知識を正しく理解し、5つのステップを導入している。	関係作りのテクニックと知識を正しく理解し、導入	関係作りのテクニックと知識を正しく理解し、5つのステップを導入している。										6	8
2	2	2				ワークショップを実施している	ワークショップの実施	ワークショップを実施している。ワークショップ報告書類を事前提出										6	8
2	2	3				個人評価を実施するユマニチュードリーダーが選出されて活動している	ユマニチュードリーダーの選出と活動	個人評価を実施するユマニチュードリーダーが選出されて活動している									Y/N	Y/N	Y/N
2	2	4				5つのステップに関するユマニチュードリーダーによる個人評価が行われ、結果が記録されている。	ユマニチュードリーダーによる個人評価の実施	5つのステップに関するユマニチュードリーダーによる個人評価が行われ、結果が記録されている。									8	8	8

ブロンズの必須項目

評価基準

具体例

必須項目	評価項目					評価基準	評価手段					訪問調査		達成レベル							
	大項目		中項目		到達目標 (中項目レベル)		小項目	面談	観察	現場の書類 閲覧	事前提出 / 書式	事前提出 / 書類	自己評価	施設 コメント 欄	評価員 の判断	評価員 コメント 欄	ブ ロ ン ズ	シル バー	ゴール ド		
2	2	5	原則1 強制ケアをゼロにする、ケアを放棄しない	b) 関係作りのテクニック、および関係性の柱の構築	5つのステップ: 出会いの準備	職員が来訪を告げ、入室の許可を得るドアのノックを行なっている	職員が来訪を告げ、入室の許可を得るドアのノックを行なっている	職員が来訪を告げ、入室の許可を得るドアのノックを行なっている										8	8	8	
2	2	6				職員が来訪を告げ、入室の許可を得る方法を本人の状態や環境に応じて選択し、本人の覚醒水準を徐々に上げている	本人に伝わりやすい方法の選択	職員が来訪を告げ、入室の許可を得る方法を本人の状態や環境に応じて選択し、本人の覚醒水準を徐々に上げている 例:-ベッドのフットボードのノック -ベッド柵のノック -床頭台のノック -車いすのアームレスト -テーブルのノック -両手を大きくふる -その他											8	8	
2	2	7				返事を待つ間に本人の表情(まばたき、口の動きなど)や手足の動き(筋の緊張)を観察している	表情の観察	返事を待つ間に本人の表情(まばたき、口の動きなど)や手足の動き(筋の緊張)を観察している												6	8

シルバーの必須項目